

# 超高齢社会における

## 歯科医療の役割

### 4月18日「よい歯の日」

#### ●キーワードは「感染」と「栄養」

超高齢社会を迎えて、多障害・多疾病を有するお年寄りへの対応、通院が出来ない人への訪問歯科診療等が重要になってきました。

歯科医師が超高齢社会に対応するには、従来の虫歯、歯周病への治療や入れ歯を作るような形態学的回復を目的とした診療だけではなく、お年寄りの口腔機能へのアプローチも必要になります。何故ならお年寄りになると、加齢、疾患、障害などにより、口腔機能が低下し、口腔衛生環境が悪化し、それらが栄養摂取不良、感染という経路を経て全身へと影響を及ぼすからです。

#### ●歯科医療は健康寿命延伸活動

感染しやすく、低栄養となり得るお年寄りへの

歯科対応には全身または局所の感染予防を目的とした口腔衛生管理、歯周病治療、外科処置のほかに、栄養改善を目的としてリハビリテーションが求められます。がん患者への医科歯科連携対応も今後ますます欠かせないものになります。

歯科医療は、こうした課題への取り組みで歯科医療を通して地域住民の健康寿命延伸のための活動であると考えられます。

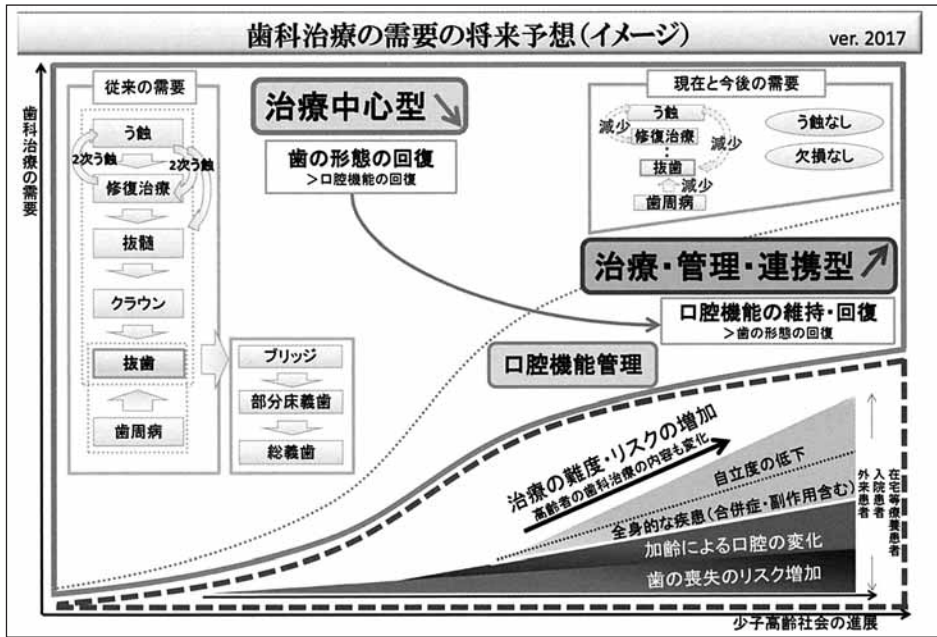
#### ●連携の為に口腔アセスメント

そうした目的への歯科医療は多職種との連携が求められてきます。何故なら、日常的に要介護者への口腔ケアや栄養改善を行う主体者は、看護師や介護者であるからです。

そこで看護師等が行う日常的な口腔ケアと歯科衛生士が行う専門的な口腔ケアとの役割分拍を明確にし、職種間の連携を強化する為に口腔アセスメント（口腔内の汚染や乾燥の程度を評価する事）を共有し、それによってケア計画を立てて口腔ケアの手技や介入回数の一貫を図り、それぞれの役割を果たすことが求められます。

（鶴岡地区歯科医師会）

歯科治療の需要の将来予想（イメージ） ver. 2017



厚生労働省から出された歯科治療の需要の将来予想のイメージ 今後、歯科治療は、従来の治療中心型の割合が減少し、対象に高齢者を含めた口腔機能管理の割合が増加していく